

早春から動き出す大型ハ工類



東洋産業だより

Vol. 182
2019年3月号

3月になり、過ごしやすいになりましたが、啓蟄も迎え、徐々に虫の発生も始まる頃です。まだ気温が低い時期でも活動し、問題となることが多い虫の仲間にいわゆる大型のハ工類（体長5mm以上のアブ類とハ工類）がいます。これは人の生活圏内で普通に見られ、飛翔力が高く、建屋内に侵入してくることがあります。春、黒くて大きなハ工がいたら、オオクロバエやケブカクロバエというクロバエ科のハ工である可能性がありま

す。これら2種は冬でも10度くらい比較的暖かい日には活動し、気温が高くなる4月下旬頃から気温が低い地域（より高緯度、あるいは標高が高い場所）に移動することが知られています。

また、公園などの植物がある場所では、その他の大型ハ工類が飛翔しているのを確認することができ、これらの多くはクロバエ科以外ではイエバ工科、ヒメイエバ工科です。

表1. 春先問題となる大型ハ工類の食性と主な発生源

	幼虫の食性	発生源
イエバエ科	腐食性、植食性、捕食性、寄生性	生ごみ、鶏舎、牛舎、動物の糞、鳥の巣、たい肥など
ヒメイエバエ科	腐食性、菌食性	生ごみ、鳥の巣、鶏舎、たい肥、キノコ類、漬物桶など
クロバエ科	腐食性、寄生性	脊椎動物の死骸、寄主となる貝などの動物類

イエバエ科とヒメイエバ工科の種はよく鶏舎で発生する事例が知られています。しかし人の生活圏内では、生ごみなどで発生することが知られています。これらのグループは寒冷な地域に多い昆虫類であり、春と秋に多くの個体が発生します。製

ら嫌われやすい昆虫であり、製

品に混入した場合、特に悪いイメージを持たれる昆虫類です。さらに、腸管出血性大腸菌などの重要な病原の媒介者となるため、衛生上の問題も引き起こします。

大型ハ工類は昼でも活発に活動するため、捕獲には高い誘引力のある捕虫機が望まれます。また、その重さで捕虫紙から落下し、周辺を汚すこともありま

す。これらの理由から、捕虫機

の選択が重要となります。

おすすめ商品：Withusゲッター

この商品は照度と温度の二方面から、昆虫類を誘引するため、他の捕虫機よりも捕虫効率が良いという検証結果も出ています。また、底に捕虫紙が敷かれているため、捕まった昆虫は脱出することができない構造となっています。構造的に捕まっている虫が見えにくいという景観的な観点でも優れており、大型ハ工類をはじめとする昆虫類が動き出すこれからの季節にお勧めです。



今月の豆知識：休眠とは？

冬と夏は、多くの生物にとって活動に不適な時期です。例えばクマは冬眠して冬を乗り切ります。「冬眠」は気温が低下する冬季に休眠することであり、夏に休眠することを「夏眠」といいます。夏眠は暑さや乾燥が厳しい場合に夏を乗り切るために行われることがあり、熱帯の地域に生息する肺魚は乾燥する時期をやり過ごすために土中で夏眠します。

休眠とは、代謝機能を下げることによって長期間空腹などに耐え、活動に不適な時期をしのぐことです。休眠の開始と終了の条件は日長や温湿度の変化であることが多く、種によってその条件は異なります。これらが満たされると休眠に入る、あるいは休眠から目覚めます。

冬季、夏季は寒さや暑さなど過酷な環境によって、上述のように休眠をするものが知られていますが、クロバエ科のオオクロバエや渡り鳥のように移動することによって好適な地域に逃れることにより、うまく環境に適応しているものも知られています。必ずしも休眠だけが不適な季節を乗り切る手段ではありません。いろいろな生き物が姿を消す時、どこかで休んでいるのかもしれないね。



東洋産業株式会社

本社 岡山市北区新屋敷町3-1-19 120

TEL 086-2241-8080

FAX 086-2241-8094

拠点 大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島

高松・松山・金沢

www.to-yo-s.co.jp

(バックナンバー掲載中)